

世界で最も危険な国はどこなのか

3年D組 佐々木かなで

目次

第一章 はじめに

第二章 国の選出

- 第一節 《アジア州》
- 第二節 《ヨーロッパ州》
- 第三節 《北アメリカ州》
- 第四節 《南アメリカ州》
- 第五節 《アフリカ州》
- 第六節 《オセアニア州》

第三章 部門の選出

第四章 各部門の結果について

第五章 順位の結果と考えたこと

- 第一節 上位グループ
- 第二節 中位グループ
- 第三節 下位グループ

第六章 まとめ

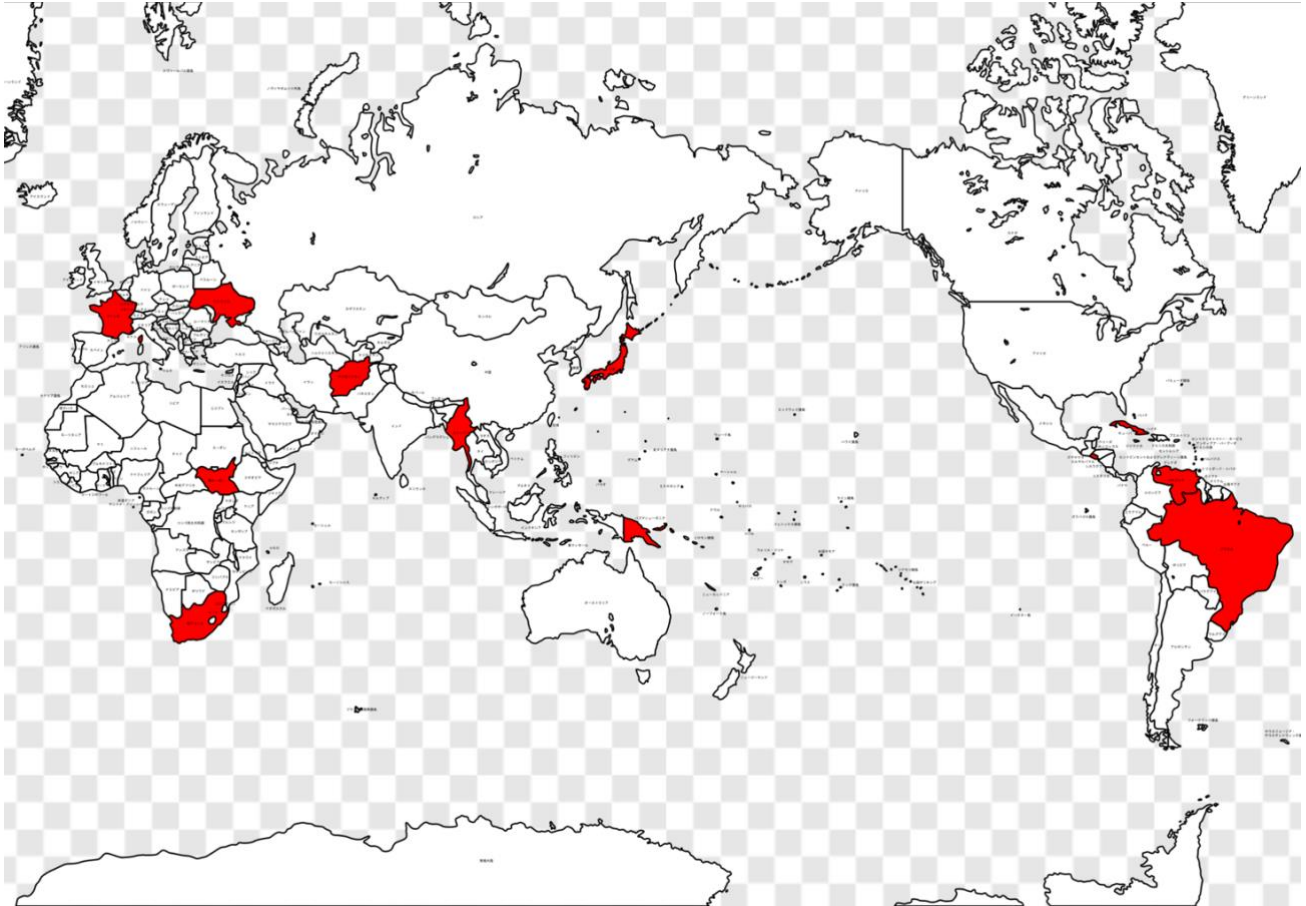
参考文献

第一章 はじめに

私は昔から地理や歴史が好きで、よくテレビ番組や本を読んでいた。中学校に入って「中学3年生になると課題研究をしなければいけない。そのテーマをどうしようかな。」と考えていたとき、「昔から好きだった地理か歴史の課題研究ができれば楽しいだろうな。」と考えていた。そんな最近、テレビやネットニュースなどで戦争や殺人事件の話題をよく聞いたり見たりして、ふと「今戦争が起きている国が一番危険なのかな？国の危険度は戦争だけで決められるのかな？殺人が多発している国、危険じゃないように見えても独裁政治が行われている国も十分危険なんじゃないかな。」と危険についての定義を考えるようになった。他にも「自然災害関連の危険や病気が流行する危険、さらには、その国に暮らしている人の寿命の長さや幸福度も危険度に関連するかもしれない。」とどんどん危険について考えるようになり、課題研究で危険な国のランキングを自分で作ってみたいら面白いかもしれないと思った。そこで今回このテーマで課題研究をすることを決めた。

第二章 国の選出

まず、私は各地域 2 か国に日本を加えた計 13 か国で世界の住みにくい国ランキングを作った。そこで、なぜその国を選んだかの理由とその国に関する説明をしようと思う。



第一節 《アジア州》

- 1 日本 他の国と比較して、ランキングをより分かりやすくするために選出。
- 2 アフガニスタン アジア大陸の中央付近に位置する内陸国。日本でもニュースになったタリバンによる国内制圧や長期間に及んだ戦争の影響により悪化した治安など、世界でもかなり危機な国として知られているため選出。
- 3 ミャンマー 2021 年に発生したクーデターにより、国の事実上の指導者だった人物が自宅に軟禁され現在は刑務所に入れている。そのため、国の政権は軍が握り、各地で軍と民主勢力の争い、民間人によりストライキ運動も行われている。内戦が泥沼化した今、非常に危険な国だと思ったため選出。

第二節 《ヨーロッパ州》

- 1 フランス 今年オリンピックが開催された。歴史的建造物も多く国外からの観光客も多い。華やかな国で、危険とは関係ないように思うかもしれないが、民主差別や人種差別なども根強く残っていて、今もテロが起きることも少なくない。意外に危険な要素が多いため選出。

- 2 ウクライナ 世界最大の面積であるロシアの隣に位置した国。2022 年から始まったロシアとの戦争は今も続いていて、領土内では攻撃による死者、負傷者も多くいて、街も破壊されている。今、世界で最も危険な国の一つであると考えたため選出。

第三節 《北アメリカ州》

- 1 ハイチ カリブ海に浮かぶ北海道の 3 分の 1 ほどの大きさの島。世界初の黒人独立国として知られている。そんなハイチだが、長期間にわたる政情不安や度重なる自然災害の影響から社会がまだまだ安定していない。そのため、教育や社会福祉のサービスも十分に受けられない。また、2021 年に大統領が暗殺され、まだ今も国全体が混乱中であるため選出。
- 2 エルサルバドル 北アメリカの端にある九州の半分ほどの大きさの国で人口の半分以上を 30 歳以下の若者が占める。しかし、1990 年代に起きた政府と反対勢力の戦争の影響でアメリカでギャングをしていた人々が母国に戻ってくる。それ以来ギャングによって国は支配されていた。売春や民間人の殺人など治安が最悪に悪い国だったため選出。

第四節 《南アメリカ州》

- 1 ブラジル 南アメリカ最大の国で豊かな自然が有名。そしてサッカーの強豪国でワールドカップのたび世界中を沸かせている。近年急激な成長を遂げ、南米では危なくなさそうと思う人も少なくないだろうが実は治安の悪さは世界有数。都市部とその他の街の格差が酷く、各地でスラム街が存在し、ギャングや薬物、殺人など事件が絶えることなく起きている。また、都市部でもスリや強盗が多発。そして保有している熱帯林に対する問題も深刻化しているため選出。
- 2 ベネズエラ 南アメリカ大陸の北に位置する国。ベネズエラと検索しようとするに変換に「カラカスやばい」と出てくるほど治安が悪くて有名な首都カラカスを中心に各地で銃犯罪や殺人が多発している。不安定な政府のせいで経済的にも社会的にも不安な状態が続き人が暮らせないほど社会の秩序が保たれなくなった結果、2019 年時点で人口の 1 割以上が難民として他国に移りその数は今も増えているため選出。

第五節 《アフリカ州》

- 1 南アフリカ アフリカ大陸の南端に位置する国。ラグビーの強豪国として知られている一方で資源が豊富で特にダイヤモンドが有名。2000 年頃から発展し始めた国 BRICS の一つである。かなり有名な国でアフリカの中では比較的平穏な国に見えるかもしれないが実際は武器や麻薬の密輸・犯罪が絶えない状況になっている。郊外都市だけでなく中心都市も非常に危険で、海外進出を果たそうとする企業も頭を悩ませている。フランス同様、意外と危険度が高いと思ったので選出。
- 2 南スーダン アフリカ大陸の中央付近にある国。バスケットボールの強豪国。2011 年に隣国のスーダンから独立し、世界で最も若い国と言われている。しかし、2013 年以降

繰り返し内戦が起き 2018 年に一段落がつき今は少し落ち着いているものの、内戦の影響である貧困や飢餓、気候変動による災害も後を絶たない。また、隣国スーダンでの内戦により難民として避難していた人々が帰国しなければならなくなり、抱えている問題の解決に非常に難航しているため。

第六節 《オセアニア州》

1 パプアニューギニア オーストラリアの上に位置する島国。都市部と郊外部でかなり貧困差が激しく治安が悪化。その貧困差から来る高い失業率、デング熱やジカ熱など熱帯特有の感染症など、自然豊かなリゾート地とはかけ離れた実像があったため選出。

2 ツバル 赤道直下の太平洋中央付近に位置する国。美しい自然で有名な観光地にもなっている。しかし、国の海拔が最高五メートルと非常に低く、地球温暖化による海面上昇が起きている今、「世界で 1 番早く沈む国」としても有名になりつつある。ニュースでも取り上げられて他の国とは少し異なっているが住みにくそうだと思ったため選出。

第三章 部門の選出

次に表を作成する。表はアメリカのサイトの THE WORLD FACT BOOK から私が危険な国になりうると思ったら要素を取り出して、各部門ごとに順位を付け総合得点が最も高かった国を世界で最も危険な国とする。ここでは私がなぜこの部門を選出したかの理由と順位についての観点を書きたいと思う。

1 平均寿命

《理由》平均寿命を見ることによってその国の医療制度や社会福祉制度の充実度を測ることができるから。

《観点》そのような制度が充実している先進国ほど順位は高く発展途上国ほど順位は低くなっていると思う。

2 合計特殊出生率

《理由》その国の子供に対する意識と将来性を表している為今後の国の未来を分かりやすく読み取れると思ったから。

《観点》高すぎても多産の負のループに陥ってしまうし低すぎても少子化が起こってしまうので国家を維持していけない。順位は先進国や発展途上国関係なくつくと思う。

3 乳幼児死亡率

《理由》医療機関の発達度合いやその国における女性の地位を表していると思ったから。

《観点》発展途上国やイスラム教など宗教的に女性の地位が低い国が順位は低くなると思う。

4 教育費

《理由》国の将来の人材を保つために教育機関は非常に重要であり、費用の割合を見ることでそれをどれだけ大切にしているかがわかるから。

《観点》教育に関する制度を昔作ってしまった国は今の新しい教育に対応しにくくなっているため先進国より新興国の方が順位は高いと思う。また、教育機関が十分でない発展途上国の順位は低くなっていると思う。

5 国内総生産(GDP)

《理由》国の経済発展の度合いを図ることができるから。

《観点》経済的に発展している先進国が高い順位になっていると思う。

6 一人当たりの GDP

《理由》人口で GDP を割ることでより正確な経済発展の度合いがわかるから。

《観点》GDP のランキングではあまり順位が高くなかった国も上位に入ってくると思う。

7 失業率

《理由》その国の働きやすさを表しているから。安定した生活を送る上では安定した仕事を得ることは必須だから。

《観点》経済的に発展している先進国はもちろん発展途上国であっても主要な産業を確立できている国は上位に入ってくると思う。逆に人口の少ない島国は下位になると思う。

8 インターネット利用者割合

《理由》今は情報社会で何をするにあたってインターネットは必要になってくる。そのためどんな国であってもインターネットの利用者率は高い。率を比べることでよりインターネットの普及ができていない国を見つけることができるから。

《観点》どの国も高い利用率で僅差にしかならないと思う。なお、このインターネット利用者割合はインターネットユーザー数を全人口で割って求めている。

9 純移行率

《理由》移民の数がわかるのでその国の住みづらさや危険度がわかるから。

《観点》1000人あたりの人口の何人が移民かを調べる。現在も紛争が続いている地域は多くなると思う。陸続きになっている国は島国より上位になると思うがツバルは海面上昇の影響もあり他の島国と比べて上位になっていると思う。

10 軍事費

《理由》自国の安全を守るために国家予算に軍事費は必ず必要になってくるから。また軍事費が高いと言われる日本と他国の差も気になるから。

《観点》最近独立をした国や周りの国と今も不安定な関係が続いている国、自然と軍事費に予算を回す割合が高くなると思う。

第四章 各部門の結果について

第三章で選出した各部門の実際の結果をまとめ、10項目の合計の順位をつけた。

	平均寿命	合計特殊出生率	乳幼児死亡率	教育費	GDP	一人当たりのGDP	失業率	インターネット利用者の割合	純移民数	軍事費	合計	総合順位											
日本	85.2	1	1.39	9	1.9	1	3.4	7	3,791,000,000,000円	1	46,300ドル	2	2.58%	1	83	3	0.7	5	1.4	7	37	2	
アフガニスタン	54.4	13	4.53	12	101.3	13	2.9	8	80,436,000,000ドル	8	1,000ドル	12	14.39%	11	17	12	-0.1	7	3.3	4	100	11	
ミャンマー	70.3	8	2	3	32.1	10	2.1	9	5,900,507,000,000	6	5,300ドル	8	2.84%	4	41	9	-1.4	10	3.9	3	70	8	
フランス	82.6	2	2.02	2	3.1	2	5.5	4	53,764,000,000,000	3	59,200ドル	1	7.32%	7	82	2	1.1	4	2.1	6	33	1	
ウクライナ	70.5	7	1.57	8	8.7	3	5.4	5	359,981,000,000	5	16,200ドル	4	9.83%	9	97	1	36.5	1	33.5	1	44	3	
ハイチ	65.6	11	2.39	6	36.8	11	1.4	11	34,406,000,000ドル	11	2,900ドル	11	14.62%	12	36	10	-1.6	11	0.07	12	106	13	
エルサルバドル	75.9	4	2.04	1	11.7	4	4.1	6	71,952,000,000ドル	9	11,300ドル	6	2.76%	3	60	8	-7.7	13	1.2	8	62	6	
ブラジル	76.3	3	1.75	6	12.9	5	6	3	54,016,000,000,000	2	18,600ドル	3	7.95%	8	77	4	-0.2	8	1.1	9	51	4	
ベネズエラ	74.5	5	2.2	5	13.9	6	1.3	13	526,068,000,000	7	7,704ドル	7	5.53%	5	73	5	13.2	3	5.2	2	58	5	
南アフリカ	71.9	6	2.17	4	21.9	7	6.6	2	5862,981,000,000	4	14,300ドル	5	27.99%	13	70	6	-0.2	8	0.7	10	65	7	
南スーダン	60.3	12	5.2	13	60.1	12	1.5	10	20,010,000,000ドル	12	1,600ドル	13	12.27%	10	7	13	19.1	2	2.5	5	102	12	
バブアニューギニア	70.1	9	3.85	11	32	9	1.4	11	542,900,000,000	10	4,200ドル	10	2.65%	2	32	11	0	6	0.3	11	90	10	
ツバル	69	10	2.81	10	27.8	8	12.8	1	59,202,000ドル	13	3,200ドル	9	6.50%	6	48	7	-6.3	12	0	13	89	9	
(2.07との差の大きさ)					(ツバルのみ2023)				(ベネズエラ2018)		(ウクライナ2021)				(インターネットユーザー率は)						(アフガニスタン2019)		

8 インターネット利用者割合

《結果》どの国もある程度高い数値だった。だからこそ余計に数値が低かった国が目立つ結果になった。

9 純移行率

《結果》今も戦争が続いているウクライナは数値がマイナスになっていると予想していたけれど今はウクライナに戻ってくる人が多く、数値が大幅にプラスになっていて嬉しかった。対してかなりの国の数値がマイナスになっていて、特にツバルは予想通りかなり移民数が多いことがわかった。

10 軍事費

《結果》ウクライナの数値が際立って高かった。どれくらいが理想的な数値なのかはわからなかったが、どの国も大体日本と同じくらいの数値だった。調べてみると軍事費が全くなくその分のお金を国民のために回して使っている国もあった。実際その国では教育制度や社会保障制度に対する満足度が非常に高い。その制度や考え方はすごく素敵だと思ったし、どの国においても理想の形になるんじゃないかと思った。

	平均寿命	合計特殊出生率	乳幼児死亡率	教育費	GDP	一人当たりのGDP	失業率	インターネット利用者割合	純移行率	軍事費	合計	総合順位
日本	1	9	1	7	1	2	1	3	5	7	37	2
アフガニスタン	13	12	13	8	8	12	11	12	7	4	100	11
ミャンマー	8	3	10	9	6	8	4	9	10	3	70	8
フランス	2	2	2	4	3	1	7	2	4	6	33	1
ウクライナ	7	8	3	5	5	4	9	1	1	1	44	3
ハイチ	11	6	11	11	11	11	12	10	11	12	106	13
エルサルバドル	4	1	4	6	9	6	3	8	13	8	62	6
ブラジル	3	6	5	3	2	3	8	4	8	9	51	4
ベネズエラ	5	5	6	13	7	7	5	5	3	2	58	5
南アフリカ	6	4	7	2	4	5	13	6	8	10	65	7
南スーダン	12	13	12	10	12	13	10	13	2	5	102	12
バブアニューギニア	9	11	9	11	10	10	2	11	6	11	90	10
ツバル	10	10	8	1	13	9	6	7	12	13	89	9

第五章 順位の結果と考えたこと

第四章より、この 10 項目の順位を国ごとに合計して順位を出すと上位から、フランス・日本・ウクライナ・ブラジル・ベネズエラ・エルサルバドル・南アフリカ・ミャンマー・ツバル・パプアニューギニア・アフガニスタン・南スーダン・ハイチという順番になった。大体 13 カ国を点数で分けると三つのグループに分けることができた。

第一節 上位グループ

まず一つ目がフランス・日本・ウクライナのグループ。どの項目も満遍なく高い順位でさすが先進国と言われるだけの点数だなと思った。ウクライナは今戦争中であるにもかかわらず 1 番上のグループに入っていて、戦前はもっといい環境で暮らせていたんだろうと思った。2 カ国とも上位にランクインしたヨーロッパの国は全体的に安定した暮らしができて危険度も低く住みやすいんだろうと改めて感じた。

第二節 中位グループ

次に二つ目がブラジル・ベネズエラ・エルサルバドル・南アフリカ・ミャンマーのグループ。地域でいうと特に南米あたりが多くなっている。BRICS にも加盟していて新興国と言われているブラジル、南アフリカがこのグループに入ったことには個人的には少し驚いている。しかし、二つ目のグループの国をイメージをすると少し危険度なことを思い浮かべる人も多いと思う。実際、この国々では一つ目のグループに比べて犯罪や殺人、麻薬の密輸など解決がなかなか難しい問題が沢山ある。困難なことではあるが早く問題を解決させてもっとみんなが暮らしやすい国になってほしいと思った。

第三節 下位グループ

最後の三つ目がツバル・パプアニューギニア・アフガニスタン・南スーダン・ハイチのグループ。地域は様々だが、この国々はどの項目でも順位が低かった。そして見たらわかる通りかなり先進国・新興国と数値がかけ離れている。おそらく全ての分野において抱えている課題が私が思ったよりも深刻で解決したくてもなかなか解決できないものなんだと思った。更にそれが他の分野の問題を引き起こしたりと負の連鎖が続き、いい国を作ろうにもどうしたらいいかわからないのだろう。

第六章 まとめ

第五章の表を見たらわかる通り、総合順位が下位の国はほとんどの部門において順位が低かった。このことから全ての部門は一つ一つが独立しているわけではなく、全てがつながっていることが分かった。だから国が一つの問題を抱えてたとしてもその問題は実は一つではなく、私たちが見えないところでいくつもの問題に作用しているのである。発展途上国がなかなか抱えている問題を解決できないのはこのせいなのかもしれない。しかし裏を返すと、少しでも問題を解決に進めると連鎖的に全体が解決に向かっていくことになる。その結果が私たちに数値として見えなかったとしても必ず良い方向に進んでるにだろう。抱えている問題の量に途方に暮れるのではなく、今やっている小さなことが問題の解決に必ず繋がると希望を持って様々な事に取り組んでいくことが危険を無くし、より住みやすい国を作る方法なのかもしれないとこの研究を通して分かった。

参考文献 The World Factbook